

G1ダービー2023「全頭診断書」

ダービーはオークスと違い、ほとんどの馬が2000m以上の距離で実績を持っているレース。

そのため、スタミナの面での距離適性は、「ある」事が前提のレースになります。

ダービーで重要になるのは、「スピードの絶対値」であり、1800m以下の重賞で通用するスピードが重要。

OPクラスの2000m以上にしか出走経験が無い場合は4角を5番手以内で通過して勝っている「先行力」が重要です。

【血統】

- ・父か母父がサンデー系種牡馬
(特に自身がダービー馬か産駒にダービー連対馬がいる種牡馬)
- ・母系からマイル以下のG1で通用するスピードを強化
(血統又は母や祖母の距離実績)
- ・父か母父にディープインパクトの血(同血のブラックタイド含む)
- ・ダンチヒ系や米国型ノーザンダンサーの血を持つ馬
- ・トニービンや、独ダービー血統で中長距離における直線の伸びを強化。

【距離実績】

- ・1800m以下の重賞で、上り2位以内で連対実績がある馬に注目。
- ・2000m以上かつミドルペースのOPクラス(重賞含む)を先行して勝利。
- ・2000m以上の重賞で上り最速にて連対。
- ・1800m以下の重賞経験がなく、前走がG2青葉賞の場合青葉賞で4角4番手以内から連対している。

【上り3位以内率】

7割の確率で瞬発戦となるダービーでは
上り3Fタイム順位の実績が非常に重要になります。

・キャリアの70%以上で「上り3位以内」をマークしている馬

【前走】

・前走で5人気以内か5着以内

以上の点に基づいて、出走登録馬の全頭診断を進めて参ります。

1番ベラジオオペラ

父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)

母父:ハービンジャー(欧ダンチヒ系)

祖母父:サンデーサイレンス

父は名スプリンターで、スピード能力は父から補完。
それ自体は悪く無いのですが、問題は牝系の特性でしょう。

エアデジャブー(オークス2着・桜花賞3着)の牝系ですが、
そのファミリーの中で、本馬の直系となるエアマグダラの
系列はローカル中距離への適性が高い「持続力タイプ」

本馬自身も、消耗戦となった中山のG2スプリングS(1800m内)
を勝っているように、持続力を活かした方が好走出来そうな
イメージのタイプです。

同じ中山内回りのG1皐月賞では、
息がもたずに惨敗しており、2000mでも長い可能性があります。

血統評価:D

実績評価:C

上り3位以内率:50%

前走評価:D

相対指数:C

総合評価:E

2番スキルヴィング

父:キタサンブラック(Tサンデー系)

母父:シンボリクリスエス(欧州ベルト系)

祖母父:アドマイヤベガ(Tサンデー系)

サンデーサイレンスの3×4クロスを保持

ソニク牝系で、ファミリーからはダービー馬ロジュニヴァース、安田記念馬ソングラインなどが出ております。

父はダービーでは惨敗しましたが、産駒のイクイノックスが昨年2着に好走しました。母父シンボリクリスエスはダービー2着馬。祖母父アドマイヤベガはダービー馬。

本馬の前走は、ダービーと直結しないと言われるG2青葉賞ですが、通常の「賞金が足りないから背水の陣で」という理由での青葉賞ローテではなく、皐月賞は無視してダービーに的を絞った「計画的な青葉賞ローテ」からの参戦です。

能力の高さは、青葉賞勝利騎手インタビューで、ルメール殿が「この馬はG1ホースになれます」と発言し、ファントムシーフに見向きもせずこの馬の騎乗を選んだことが証明となりましょう。

前走が青葉賞だから。と言うのは全く気にしなくても良いと考えますが、

使われてきた距離と脚質に不安があると思います。

つまり、スタートが遅く一度も先行経験が無い
という事が、ダービーではマイナス要素となるという事。

無論、上り3位以内率は100%ですから、
最後は伸びて来るだろうとは思いますが・・・

青葉賞や、ゆりかもめ賞のように、中間のラップタイムが
2F連続で12秒台後半になるような「マツタリした」展開は
ダービーでは望めず、もっとタイトなラップになるか、
道中が緩めばロングスパート戦になるのがダービーの厳しさ。

要するに、今まで以上に位置取りが後方になる
可能性が高く、物理的に追込んで届くのか？
と言う不安があると拙者は考えております。

血統評価:C

実績評価:C

上り3位以内率:100%

前走評価:B

相対指数:A

総合評価:C+

3番ホウオウビスケッツ

父:マインドユアビスケッツ(米ヴァイスリージェント系)

母父:ルーラーシップ(欧キングマンボ系)

祖母父:ディーピンパクト

マンファス牝系で、近親にキングカメハメハ

つまり、本馬の母ホウオウサブリナは、
マンファスの3×2クロスが発生する近親配合馬。

父マインドユアビスケッツは、

G1ドバイゴールデンシャヒーン(ダ1200m)を連覇した
ダートのスプリンターでした。

父に**米国型ノーザンダンサー系**のダート馬を持つ馬としては
2013年の3着馬アポロソニックがおりますが、父ビッググラウンは
ダンチヒ系で、米国の2000mダートG1ケンタッキーダービー馬でしたから、
意味合いは全く違うものと解釈しております。

血統の字面からは、母系で中距離適性を
補っているという解釈が成り立ちますが、
母父が非主流条件向きだったルーラーシップとなりますと、
ダービーとは少しズレた印象を受けます。

重馬場・消耗戦のG2スプリングS(中山1800内)で
2着に好走しておりますが、それもむしろダービーとは
真逆の適性の高さを証明しているものであり、
少々狙いにくいイメージです。

血統評価:D

実績評価:C

上り3位以内率:50%

前走評価:E

相対指数:D

総合評価:E

4番トップナイフ

父:デクラレーションオブウォー(欧ダンチヒ系)

母父:スピニングワールド(欧ヌレイエフ系)

祖母父:バンブーアトラス(欧リポー系)

曾祖母父:ブラッシンググルーム(欧レッドゴッド系)

ブラッシンググルームの4×4クロスを保持

ワンスウエド牝系で、テイエムオペラオーの出身母体。

父デクラレーションオブウォーは英国の2000mG1馬。

母父スピニングワールドは仏国のマイルG1馬。

祖母父バンブーアトラスは日本ダービー馬。

ブラッシンググループは、母系に入るとスピード強化の作用がある血で、母父として新潟千直のレコードホルダーカルストンライトオを出しております。

母父スピニングワールドからもマイラーとしてのスピード能力を強化されており、米国型血統を持っていないものの、ダービーで必要になるスピード強化の水準は満たしていそうです。

OPリステッド競走の萩S(阪神1800外)を2番手追走から上り2位で勝っていることからスピード能力は足りていると判断しています。

また、リポアの血は、大舞台で激走する「狂気の血」と呼ばれており、警戒が必要です。

血統評価:C

実績評価:B

上り3位以内率:44%

前走評価:D

相対指数:C

総合評価:注

5番ソールオリエンス

父:キタサンブラック(Tサンデー系)

母父:モチベーター(欧サドラーズ系)

祖母父:クエストフォーフェイム(欧ブラッシンググループ系)

母の従兄弟に英・愛オークス馬。

半姉ヴァンドギャルドはG1ドバイターフ(1800m)の2着馬ですが、国内では**消耗戦**のG3富士Sが唯一の重賞勝利でした。

本馬は重馬場で、レースの上り3Fタイムが37秒2を要したG1皐月賞において、4角17番手から追込んで優勝を果たしました。

内回りコースの重い馬場という「非主流」と呼ぶべき条件のレースでの強さは、まさに欧サドラーズ系の本領発揮と申せます。

また、父キタサンブラックは、その産駒にパワータイプが多い種牡馬でもあり、更に言えば、祖母父は凱旋門賞馬のレインボウクエスト産駒であります。

これほどパワーとスタミナの強化に偏った配合は、ダービーで求められるスピード能力の強化とは真逆の方向性の配合であり、雨の恩恵がなければ苦戦もやむなしと想像しております。

血統評価：E

実績評価：C

上り3位以内率：100%

前走評価：A

相対指数：A

総合評価：D

6番ショウナンバシット

父：シルバーステート(ディープ系)

母父：メダグリアドーロ(米ND系)

祖母父：米ヴァイスリージェント系/ND系

曾祖母父：ゴーンウエスト(米ミスプロ系)

シルバーステートは母系にスピード強化血統を持たせることで、外回りコースのマイル重賞で通用する

産駒を出す傾向がある種牡馬です。

本馬の母父は、母系から完成の早さと直線のトップスピードを強化する米国型ND系で、祖母父、曾祖母父も米国型血統という徹底したスピード強化配合馬です。

先行タイプですが、キャリア6戦中5戦で上り2位以内の末脚を繰り出しており、若葉ステークス(OPL)でも4角2番手から上り最速で勝利しております。

血統評価:B

実績評価:B

上り3位以内率:83%

前走評価:注

相対指数:C

総合評価:B+

7番フリームファクシ

父:ルーラーシップ(欧キングマンボ系)

母父:スペシャルウィーク(Tサンデー系)

祖母父:欧ミスプロ系

半姉に秋華賞馬ディアドラ。

ソニク牝系で、ファミリーからはダービー馬ロジュニヴァース、安田記念馬ソングラインなどが出ております。

ちなみに、スキルヴィングも同じ牝系出身馬になります。

ただ、父がルーラーシップで半姉が晩成型のディアドラと言う点から、本馬はダービー好走の血統イメージとは少しズレるように思っております。

血統評価:D

実績評価:B

上り3位以内率:60%

前走評価:C

相対指数:C

総合評価:D

8番メタルスピード

父:シルバーステート(ディープ系)

母父:シャマーダル(欧ストームバード系)

祖母父:キングズベスト(欧キングマンボ系)

曾祖母父:欧サドラーズウェルズ

父シルバーステートは、配合相手が欧州指向の母系になると非主流条件に適性が高い産駒を出す種牡馬です。

本馬の場合、母系の配合が欧州指向で、瞬発戦よりも消耗戦の方が得意なようです。

血統評価:D

実績評価:D

上り3位以内率:50%

前走評価:C

相対指数:B

総合評価:D

9番グリュネグリーン

父:ラブリーデイ(欧キングマンボ系)

母父:スペシャルウィーク(Tサンデー系)

祖母父:サクラユタカオー(欧プリンスリーギフト系)

祖母ウメノファイバーはオックス馬。

半兄のヴェルデグリーンは中山2200mG2を2勝。

祖母父サクラユタカオーは名スプリンターのサクラバクシンオーや、安田記念勝ちのエアジハードを

出したスピード強化血統です。

ただ、近走では2000mでも先行するのが難しい印象で、上り3Fタイム順位も月並みです。

血統評価:C

実績評価:C

上り3位以内率:33%

前走評価:E

相対指数:E

総合評価:E

10番シャザーン

父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)

母父:マンハッタンカフェ(Tサンデー系)

祖母父:欧ダンチヒ系

母は非根幹距離重賞を4勝したクイーンズリング。

短距離型の父に、非根幹距離のマンハッタンカフェと言うダービーには縁遠いイメージの配合馬。

本馬自身も、OPすみれS(阪神2200m内)で最後方から上り最速勝ちを収めており、非根幹距離への適性の高さを垣間見せております。

血統評価:E

実績評価:D

上り3位以内率:100%

前走評価:D

相対指数:C

総合評価:E

11番ハーツコンチェルト

父:ハーツクライ(Tサンデー系)

母父:アンブライドルズソング(米ファピアノ系/ミスプロ系)

祖母父:パインブラフ(米ダンチヒ系)

曾祖母父:APインディ(米ポールドルーラー系)

ハーツクライは昨年のダービー馬ドウデュースの父。

サンデー系×ファピアノ系の配合は、
直線のトップスピードを大幅に強化する配合で、
成長を早める効果もあります。

また、祖母父にも成長促進血統+スピード強化+持続力強化の
ダンチヒ系を持ち、曾祖母からは持続力も与えられています。

まさに、ダービー狙いの血統設計図の見本のような配合馬です。

血統構成を考えると、青葉賞よりも
厳しいラップになりやすいダービーの方が
持ち味が生きそうで、東京コースの1800m重賞で
好走経験がある事と、左回りは券外無も好材料。

血統評価:A

実績評価:B

上り3位以内率:100%

前走評価:B

相対指数:B

総合評価:B+

12番タスティエーラ

父:サトノクラウン(欧ノーザンダンサー系)

母父:マンハッタンカフェ(Tサンデー系)

祖母父:フレンチデピュティ(米ヴァイスリージェント系)

父サトノクラウンはダービー3着馬ですが、

G1で勝ったのは香港ヴァースと宝塚記念。
つまり、非主流条件に強かった競走馬でした。

そして母父にマンハッタンカフェを持つ事で、
主流条件のイメージから更に遠ざかる印象です。

OPクラスで連対したのは中山の2戦で、
共同通信杯(東京1800)では、前残りの展開に
泣いた部分もありましたが、本馬より後ろから来た
ダービー配合馬ダノンザタイガーに差されての4着でした。

つまり、東京コースでは、よりコース適性が高い
配合馬には膝を屈してしまうような配合だと言えます。

能力は高いので、何かに恵まれれば
(既に騎手には恵まれましたが)
券内に来るかも知れませんが、重い印を打ちたい
タイプではないと考えております。

血統評価:D

実績評価:C

上り3位以内率:50%

前走評価:B

相対指数:A

総合評価:C

13番シーズンリッチ

父:ドゥラメンテ(欧キングマンボ系)

母父:ハーツクライ(Tサンデー系)

祖母父:インディゴシャイナー(米APインディ系)

曾祖母父:米フォーティナイナー系/ミスプロ系

トニービンの4×4クロスを保持

父はダービー馬で、母はダービー配合馬。

直線の伸びを強化するトニービンをクロスで持ち、
血統の字面をだけ見れば、買いたくなります。

ただ・・・

展開に恵まれた共同通信杯で後ろ3頭に差され、
前走の毎日杯が、結構速い流れで馬場も軽かった割には
勝ち時計が1分46秒6と平凡で、ちょっとスピード不足？
と、考えてしまいます。

ちなみに、ダービー馬シャフリヤールも前走が
毎日杯1着でしたが、勝ち時計は1分43秒9(レコードタイム)

まあ、全くの人気薄になる気配ですから、
6番・9番・14番あたりへのワイドを
捨てるつもりで100円ずつ勝っておくのも一興？

血統評価：B+

実績評価：D

上り3位以内率：60%

前走評価：C

相対指数：C

総合評価：D

14番ファントムシーフ

父：ハービンジャー(欧ダンチヒ系)

母父：メダグリアドーロ(米ノーザンダンサー系)

祖母父：デインヒル(欧ダンチヒ系)

デインヒルの3×3クロスを保持

ハービンジャーは、G1初参戦となった英国のキングジョージ6世を
11馬身差で圧勝したあと、骨折の為引退した馬でした。

ハービンジャー産駒はダービーでは馬券になっておりませんが、
ニシノデイジーが13人気5着と健闘し、ブラストワンピースは

池添殿が豊さんにイケズされ、直線で進路を無くしての5着と、それなりに走れております。

ダービーはダンチヒの血を持つ事は大きなプラス材料になるレースなので、それをクロスで持つのは評価すべきポイント。

祖母のプロミシングリードは、
仏国G1オペラ賞(2000m)2着、
愛国G1プリティーポリリーS(2000m)優勝と、
ハービンジャー同様に、欧州の中距離G1馬。

そこに米国型ノーザンダンサー系で、
日本の高速馬場に対応出来る素軽いスピードを強化され、
それによって、直線が長いコースでは3戦3勝の実績。

上り2位以内率も80%と、瞬発力も十分に持っております。

血統評価:B

実績評価:B

上り3位以内率:80%

前走評価:B

相対指数:B

総合評価:B+

15番ノッキングポイント

父:モーリス(欧ロベルト系)

母父:キングカメハメハ(欧キングマンボ系)

祖母父:サンデーサイレンス

母チェッキーノはオークス2着馬。

ハッピーパスの牝系で、
このファミリーの重賞連対距離はマイルと1800mが中心です。

母チェッキーノは例外的な存在であり、

父もマイラーとなると、スタミナ面の心配があります。

本馬自身が2000m以上は未経験で、
前走の毎日杯は時計レベルの低いレースで2着。

マイラー血統馬の割にはマイル重賞で足りておらず、
ダービーで勝ち負けに加わるには
根本的なスピード不足が大きな不安材料です。

血統評価:D

実績評価:D

上り3位以内率:80%

前走評価:C

相対指数:D

総合評価:E

16番パクスオトマニカ

父:ヴィクトワールピサ(Tサンデー系)

母父:ディーピンパクト

祖母父:米国型ヒムヤー系

曾祖母父:米ミスプロ系

ヴィクトワールピサ産駒は、かれこれ7年
G1で馬券に絡んでおりません(出走数36回)

母系の配合は、ディーピンパクトに
米国型ヒムヤー系(持続力強化)と、
米ミスプロ系(スピード強化)という
ダービーで走れてもおかしくはない配合です。

前走のプリンシパルSは、逃げて上り2位の末脚を
繰り出して完勝しましたが、このレースを含め
勝ったレースは全て前有利馬場で逃げたもので、
馬場傾向が味方しなかった2戦は惨敗と言える

着差で負けております。

今の東京は、非常に公平な馬場が続いており、
Cコース替わりで極端な前有利馬場が出現しない限り
居ないものとしても差し支え無さそう。

枠も8枠に入り、1角までの距離が短いこのコースで
ハナを切るにはかなりエンジンをふかす必要がありそうで、
お得意の「ドスロー逃げ」を実現するのは難しそうでもあります。

内枠に入ったハウオウビスケッツが逃げる気配もあり、
なおの事この馬には不向きな展開となりそう。

血統評価:D

実績評価:D

上り3位以内率:50%

前走評価:C

相対指数:D

総合評価:E

17番ドウラエレーデ

父:ドウラメンテ(欧キングマンボ系)

母父:オルフェーヴル(Tサンデー系)

祖母父:オーペン(欧ダンチヒ系)

母のマルケッサは、ダービー2着馬サトノダイヤモンドの半妹。

祖母父オーペンは仏国G1モルニ賞(1200m)勝ち馬。

祖母のマルペンサは、アルゼンチンのG1ホースで、
芝、ダートを問わず1200m~2000mの
幅広い距離のG1で度々連対した競走馬でした。

この影響が強く出たようで、

本馬もG1ホープフルSを先行して優勝し、アラブのUAEダービー(ダ1900m)でも連対。

父も母父もダービー馬という配合で、母はダービー2着馬の妹。

牝系からはスプリントG1でも通用するスピードを補完されている理想的とも言える配合です。

ダートで好走歴のある馬なのでちょっと狙いにくいような気もしますが、この馬の場合は、祖母マルペンサの遺伝と考えられますから、気にしなくても良いと考えます。

また、本馬はサンデーサイレンスを出したヘイローの血を4×5×5の多重クロスによって、日本の芝向きのスピードをふんだんに強化されております。

「逃げ」か「番手」で競馬するタイプですので、上り3位以内率は40%にとどまりますが、これは2018年2着のエポカドーロと同じ数値で、割り引き材料には当たらず、都合よく解釈する事にしました。

血統評価:A

実績評価:B

上り3位以内率:40%

前走評価:海外

相対指数:B

総合評価:B+

18番サトノグランツ

父:サトノダイヤモンド(ディープ系)

母父:オラトリオ(欧デインヒル系/ダンチヒ系)

祖母父:エルナンド(欧ニジンスキー系)

ダンチヒの5×4クロスを保持

父はダービー2着馬。

母父オラトリオは仏国1400mG1の勝ち馬で、
スピードの強化を担っております。

祖母父エルナンドは仏ダービー馬で、
凱旋門賞2着、ジャパンカップ3着馬。

母はイタリアの2000mG1の2着馬で、
母の半妹は英・愛オクス馬。

半兄のワーケアは、G1ホープフルSで3着、
弥生賞で2着、ダービーでは3人気8着に終わっており、
牝系ファミリーの適性としては、日本の「非主流条件」が合うイメージ。

前走のG2京都新聞杯(2200m外回り)では、
前半1000m通過が63秒8と言うスローペースを
5番手から追走して、上り2位の33秒3で
ギリギリ差しが届きましたが、少しエンジンの掛かりが
遅い印象もあり、相手強化と主流条件替りが
プラスになるかどうか疑問を感じるころ。

ただ、好位追走タイプながらも「上り3位以内率80%」
と言うのは侮れないところでもあります。

血統評価:C+

実績評価:C

上り3位以内率:80%

前走評価:C

相対指数:D

総合評価:C